

筑波大学大学院 数理物質科学研究科

博士論文 作成様式

(1) 用紙・寸法

- 1) A4 版の用紙(罫線無し)に横書きにする。ページ数の制限は無い。
- 2) なるべく両面コピーにより作成すること。

(2) 文字及び用紙の余白等

- 1) 原則として、和文または英文で書き、ワープロもしくはタイプを使用すること。
- 2) A4 版用紙に上部 2.5 cm、下部 2 cm、左右 2 cm 程度の余白をとり、本文の文字の大きさは 10~11 pt、1 ページ 4 5 行程度を目安とする。
- 3) 論文中、本文の文字は黒色とする。ただし、図やグラフ、並びにそれらの中で使う文字は、必要に応じてカラー印刷を用いても良い。
- 4) 論文は部分的にコピーによって作成しても良いが、保存中に文字が消去する恐れのないものでなければならない。たとえば黒インクや鉛筆で手書きしたものをコピーしたものは良い。図、グラフ、写真等を糊で貼り付ける場合は接着力が強く、かつ経年変化で接着力の低下や着色の恐れのないものを用いること。

(3) 表紙及び内表紙

- 1) 論文の表紙は、「表紙の書き方(和文の場合)」、「表紙の書き方(英文の場合)」に従うこと。
- 2) 背表紙の書き方は、「博士論文の製本概要」に従うこと。
- 3) 論文の内表紙は、「内表紙の書き方(和文の場合)」、「内表紙の書き方(英文の場合)」に従うこと。

(4) 製本

学位論文の製本は、硬い厚紙の表紙(上製本、ハードカバー、紺色または黒色)をつけ、背文字を入れること。

(5) 仮製本

論文審査受付時に提出する学位論文は仮製本のものでも良い。ただし、論文審査委員会における審査が終了した後、定められた日までに(4)に定める様式で製本した学位論文を再提出しなければならない。

仮製本は、A4版の縦型ファイルに、(3)で定める表紙、背表紙及び内表紙をつけ、本文がはずれないように(穴をあけるなどの方法で)綴じること。

博 士 論 文 題 目
(16~20 pt 程度の文字, センタリング)

著 者 氏 名
(16 pt 程度の文字, センタリング)

20××年×月
(16 pt 程度の文字, センタリング)

研究科の運営委員会で
「受理」を行う年月
年 月

Title of Doctor Thesis

(approx. 16 to 20 pt)

Name of Author

(approx. 16 pt)

February 20xx ←
(approx. 16pt)

研究科の運営委員会で
「受理」を行う年月
(月) (年)

筑波大学大学院博士課程
(16 pt 程度の文字, センタリング)

数理物質科学研究科博士論文
(16 pt 程度の文字, センタリング)

博士 (〇〇学)
(16 pt 程度の文字, センタリング)

博 士 論 文 題 目
(16~20 pt 程度の文字, センタリング)

著 者 氏 名
(〇〇〇専攻)
(16 pt 程度の文字, センタリング)

Title of Doctor Thesis

(approx. 16 to 20 pt)

Name of Author

(Doctoral Program in *Name of Major Field*)

(approx. 16pt)

専攻名

Submitted to the Graduate School of
Pure and Applied Sciences
in Partial Fulfillment of the Requirements
for the Degree of Doctor of Philosophy in
Name of Major Field

学位名

at the
University of Tsukuba

(approx. 16pt)

博士論文の製本概要 (背表紙は横書きでも良い)

(背表紙)

(表紙)

論 文 題 目	論 文 題 目
著 者 氏 名	著 者 氏 名
二 〇 × × 年 × 月	20××年×月 ↓ 受理の年月

背表紙作成例

和文 縦書きの例（原則）

数理物質科学に関する研究	数理 太郎	1100八年11月
--------------	-------	-----------

数理物質科学に関する研究 ——特に数値研究における成果について——	数理 太郎	1100八年11月
--------------------------------------	-------	-----------

（論文題目が長い場合：適宜複数行に分けて記載も可）

和文 横書きの例（和文中に数式などを含む場合など）

環境にやさしい半導体 β -FeSi ₂ , BaSi ₂ の成長と 発光ダイオード・太陽電池などへの応用	数理 太郎	2008年2月
--	-------	---------

（論文題目が長い場合）

英文 横書きの例

Study of Wave and Neutral Beam Plasma Heating for Fusion Device. Ion	TARO TSUKUBA	February 2008
---	--------------	---------------

Growth of Environmentally Friendly Semiconductors, Beta-FeSi ₂ and Nitrides, and Their Applications to Photonic Devices and Solar Cells	TARO TSUKUBA	February 2008
--	--------------	---------------

（論文題目が長い場合：適宜複数行に分けて記載も可）